



TITLE:

3.研究教育活動, 3.8.研究集会

AUTHOR(S):

CITATION:

3.研究教育活動, 3.8.研究集会. 霊長類研究所年報 2020, 50: 84-85

ISSUE DATE:

2020-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/254652>

RIGHT:

- M Sigaud (フランス 所属・無)
(2018.9.27~2021.4.26)
受入教員: MacIntosh Andrew
研究題目: 生息環境の悪化が絶滅の危機に瀕した霊長類におよぼす影響評価
- D Hillert (ドイツ サンディエゴ州立大学)
(2019.3.19~2019.4.19)
受入教員: 脇田真清
研究題目: シンタクスの進化:サルからヒトのことばへ
- O Beasley (イギリス 所属・無)
(2019.4.10~2019.8.31)
受入教員: MacIntosh Andrew
研究題目: ニホンザルにおける乳幼児 handling およびワカモノの社会関係の形成
- C Sarabian (フランス 所属・無)
(2019.9.29~2021.9.28)
受入教員: MacIntosh Andrew
研究題目: チンパンジーにおける「嫌悪」を引き起こす認知的・生理的メカニズムの分析
- C Correia (イギリス リンカーン大学・リサーチフェロー)
(2019.11.15~2020.11.14)
受入教員: 宮部貴子
研究題目: コモンマーモセットの表情に関する研究

3.7 日本人研究員・研修員

日本学術振興会特別研究員(PD)

- 山本知里 (2017.4.1~2020.3.31) 受入教員: 友永雅己
研究題目: ハンドウイルカにおける社会的知性に関する比較認知科学的研究
- 菊田里美 (2018.4.1~2021.3.31) 受入教員: 高田昌彦
研究題目: 進行性パーキンソン病モデルサルを用いた、病態進行に伴う脳内状態変化の経時的解析

福井工業高等専門学校インターンシップ

- 兼子翔成 (2019.8.26~9.6) 受入教員: 高井正成
研究題目: 霊長類に関する研究

3.8 研究集会

所内談話会

- (*Asura International Seminar (Primateology and Wildlife Science)との共催)
- 第1回: 2019年4月17日(水)*
Cátia Correia Caeiro (University of Lincoln)
“What’s your face telling me? A comparative perspective on measuring facial expressions across species”
- 第2回: 2019年5月16日(木)
Mohammad Firoj Jaman (University of Dhaka)
“Human-Primates Interactions and Co-existence in Bangladesh”
- 第3回: 2019年6月6日(木)
川口綾乃 (名古屋大学大学院医学系研究科 細胞生物学分野)
「発生期大脳における outer radial glia 誕生の分子機構」
- 第4回: 2019年6月14日(金)
Wilson C.J. Chung and Megan L. Linscott (Kent State University, USA)
“Hypogonadotropic hypogonadism: A model for understanding epigenomic gene transcription”
- 第5回: 2019年6月20日(木)*
Crickette Sanz (Washington University in St. Louis)
“Comparative Approaches to Understanding Chimpanzee Cultures in the Congo Basin”
- David Morgan (Washington University in St. Louis)
“Chimpanzee Behavioral Ecology and Conservation in the Ndoki Forest”

第6回：2019年6月27日（木）＊

Hannah M. Buchanan-Smith (Behaviour and Evolution Research Group, Department of Psychology, University of Stirling, Stirling, Scotland)

“Incorporating natural adaptations of common marmosets to improve their welfare in captivity, and quality of scientific output”

第7回：2019年7月9日（火）＊

Rebecca Johnson (Director, Australian Museum Research Institute)

“Conservation Genomics and museums – using the past to inform the future”

第8回：2019年8月2日（金）＊

Cécile Garcia (CNRS-MNHN-Paris Diderot University, Paris)

“Primates, Ecology and Brains”

Bruno Simmen (CNRS-MNHN-Paris Diderot University, Paris)

“Metabolic ecology and ‘lemur syndrome’ :energy correlates of reproduction and lifestyle in wild Verreaux’s sifakas”

第9回：2019年11月14日（木）

Richard Corlett (Xishuangbanna Tropical Botanical Garden, Chinese Academy of Sciences, China)

“East Asia: from the equator to the temperate zone”

第10回：2019年11月15日（金）＊

Matthew G. Nowak (PanEco, Sumatran Orangutan Conservation Program)

“Conserving Sumatra's Orangutan Species”

第11回：2020年2月18日（火）＊

Marcus Clauss (Clinic for Zoo Animals, Exotic Pets and Wildlife Vetsuisse Faculty, University of Zurich)

“The digestive anatomy and physiology of primates: a comparative approach and comment upon wishful thinking in evolutionary biology”

第12回：2020年2月27日（木）

芳田剛（東京医科歯科大学ウイルス制御学分野）

「病原性ウイルスが霊長類動物の進化へ寄与する分子メカニズム」

第13回：2020年2月27日（木）＊

Anne Laudisoit (Senior scientist, EcoHealth Alliance)

“Out of Africa: Perspectives on bushmeat and monkeypox virus long distance travels”

第14回：2020年3月3日（火）＊

Christopher Flynn Martin (Life Sciences Department, Indianapolis Zoo)

“Designing a digital forest for zoo-housed chimpanzees”

3.9 霊長類学総合ゼミナール

The Interdisciplinary Seminar on Primatology 2019

日時：2019年12月10日（火）

場所：京都大学霊長類研究所 大会議室

発表：28件（口頭：16件、ポスター：12件）

霊長類学総合ゼミナールは霊長類学系の正式なカリキュラムに組み込まれており、毎年 TA を中心とした大学院生が企画運営し、所内の教員、研究員、学生の研究交流を促進することを目的として開催されている。本年は、国内の院生・研究員から海外留学生・研究者まで多様な層からの参加を設け、ポスター及び口頭による研究発表と、修士課程1年の学生や博士編入予定研究生による研究計画発表を実施した。ポスター発表では、より効率よい交流の場にするため、各自の研究内容を「1分スピーチ」で紹介する形式を導入した。特別企画として、“O/X death match”、“Crossword”、“Gesture Guess”と題したクイズ企画を実施した。霊長類に関する専門知識から霊長研、そして日本の文化の一般知識まで、幅広い観点を要するクイズに、各チームで活発な議論が行なわれ、本企画の目的である研究者間の学際的・国際的な交流が充実した時間となった。また、今年から本企画として加わった、セトライトイベント「第5回 霊長類研究所 写真展」は、学生・研究者・教員に限らず、全所の構成員皆が楽しめる場となり大変好評であったため、これからも続けていきたい。改善点としては、「写真展」のテーマが「研究内容の紹介」であった割には、霊長類の写真に限られていたため、多様な分野からの積極な参加を設けたい。一方で、去年と同様、研究員、教員からの参加者が依然として少ないため、「研究交流」「教育」の観点から参加を呼び掛けていきたい。

【霊長類学総合ゼミナール 2019 プログラム】

<口頭発表1・研究計画>

1. 横山 実玖歩（思考言語分野・大学院生）"Visual discrimination of materials in chimpanzees: Research plan and progress report"